コラム

今こそ建設業維新　未来に向けて

個人正会員　　星野 隆幸

平成 30 年は、明治元年（1868 年）から起算して満 150 年に当たります。

CNCP でも「明治 150 年企画ワーキング」でご存知の事でしょう。また内閣官房「明治 150 年」関連施策推進室の HP によると、この「明治 150 年」をきっかけとして、明治以降の歩みを次世代に遺すことや、明治の精神に学び、日本の強みを再認識することは、大変貴重な事です、となっている。それはつまり、「明治 150 年」は、明治元年以降の近代日本を再考する事であると確信します。

明治時代は、江戸時代が終焉を迎えた事で始まった時代になるので、明治元年を語る上で外す事が出来ない、幕末の若者について考えてみた。

尊皇攘夷、徳川幕府擁護等幕末の時代に生きた若者は何を考え、何に絶望し、何に希望を見出したのだろうか、命を掛けてまで 10 代、20 代の若い彼等を動かした、その根本にあるものは何だったのだろうか、外国からの訪問者が鎖国から開国へと日本の国を変えようとしているそんな騒然とした時代の中で彼等は、未来の日本の何を信じようとしていたのだろう。

今の政府は、外国人観光客を増やそうとキャンペーンを行なっている、不足する宿泊場所を確保するために、民泊を増やそうと規制を緩和した、まるで、明治維新の時のように、そして現在沢山の訪問者がこの国を訪れている。

明治維新では侍が、新しい時代を作ろうとしたが、現在は一般の庶民が先頭に立って何かを変えようとしている。政府は観光客だけでなく、働き手としての来日も歓迎している、宮崎県の建設業者の中には留学生向けに、建設技術を指導し建設業界に技術者として就職させようとしている企業も現れた、まるで、介護医療の外国人ヘルパーのようだ、対外的には新事業で受けがいいのだろうが、結局日本人に建設技術者を希望する若者がいなくなっている事の裏返しでしかない。

少し前のこと高校の進路指導教諭と話す機会があった、建設業に若い技術者が不足してこのままでは建設業が維持できなくなるので、ぜひ建設業界へ就職をお願いした事がある、その時、先が見えず、昔から 3k と言われ、休みも少ない建設業界に大事な生徒を勧めることは出来ないし初めから就職先として考えに無いと言われた、それが現実なのだ。

官民一体となって本気で、建設業界の改革、特に働き方改革に取り組まないと建設業界の未来は真っ暗になってしまうと危惧している。

幕末に明治維新が起こったように、今度は若者のため今後の建設業界のため、少し年取った昔の若者たちが先頭に立って建設業維新を起こして欲しいものだ。